

## 富士山：宝永山

- ◆日程 2018年3月26日(月)
- ◆メンバー L：前田
- ◆天候 晴れ

当初、登山するつもりはなかった。25日(日)に富士山周辺をドライブしようとして気軽に車で流していた。標高があがるにつれ積雪があり、数日前に雪が降った事を思い出す。水ヶ塚公園で車を停めて暫く夕暮れの富士山を眺めていると、そこから見える宝永山に登りたくなった。翌日も休みなので、なおさらどうするか悩む。そして私は決意した！！休日の混雑した東名を自宅に向け車を走らす。山道具一式を車に積み込み、再び富士山へ。前日夜の急な登山計画であったため、須田 CL に直電で計画を報告した。

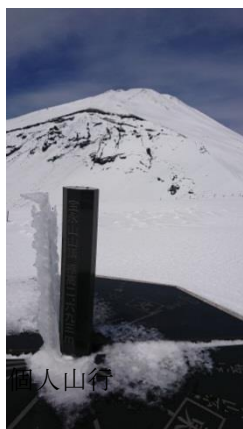
26日(月)早朝、仮眠場所から太郎坊へ移動する。御殿場口への車道は通行止めなので、県道152号線沿いの3~4台位停められる空地に停車。既に先客3組いたが私以外は皆スキーカボードであった。



御殿場口からの宝永山は雪が締まっていて歩きやすい。登山道も積雪で埋まっているためルートは自由だ。ひたすら富士山に向かって一直線に歩く。しかし歩いても、歩いても風景は変わらない。正面の富士山にも見飽きてくる。

二合八勺を過ぎる頃から急登になってくる。アイゼンを装着して登り始める。風は微風程度だが、午前中にも関わらず気温は高く日差しも強い。長袖一枚で丁度いい感じだ。足元に伝わる雪の感触も少しずつソフトになってくるが宝永山に向かって直登していく。

馬の背付近まで来ると風を感じる。強風とまではいかないがアウターを着用し、宝永山頂上に到着する。そこからの富士山頂上を見上げ、「次はお前だ！」と挑戦状を叩き付けるも、もう少し暖かくなってから登頂しようと思い直し下山開始。



急勾配な場所はシリセードで下っていく。時にスピードが上がりすぎて滑落停止措置をとる。スキーで滑るのもいいが、ケツで滑るのも楽しいものです。

今回、日焼け止め対策を確実にしなかった為、顔はパンダの様に赤黒く焼け、翌日職場に行けば皆に笑われて散々でした。日焼け止め対策はキチンとしましょう。

(記：前田)

CT：御殿場口 6:10 – 二合八勺 8:35 – 宝永山頂上 11:20/11:30 – 大石茶屋 13:00/13:15 – 御殿場口 13:45